

# 研究誌投稿要領



## 研究誌投稿要領

### I. 論文種別および取り扱い

総説（一般総説および依頼総説）、原著論文および症例報告の投稿を受け付ける。論文は、和文あるいは英文で作成することとする。論文の採否の決定は、原則として2名の審査委員の審査を経、研究誌編集審査委員会の承認によるものとする。

#### 1. 総 説

##### (1) 一般総説：

著者の研究成果をまとめたもので主題が明確であること。研究は、必ずしも完成してなくてもよいが、かなりの結論や実験的証拠の整ったもの。

##### (2) 依頼総説：

研究誌編集審査委員会が執筆依頼する論文。

#### 2. 原著論文：

独創的研究で得られた有意義な新知見を含む論文である。

#### 3. 症例報告：

今後の実地臨床に有益な知見を含む症例に関する論文である。

### II. 原稿提出

原稿は、毎年11月20日まで審査委員長に2部（1部はコピー可）提出する。

### III. 原稿作成

#### 1. 原 稿

A4判（余白：上35 mm，下左右30 mm，行間：1.5行）を使用する。本文のフォントは、MS明朝またはTimes New Romanの12ポイントを用い、化合物番号、数字はすべてアラビア数字を使用する。すべての原稿には、通しのページ数を記載する。英文部分は、必ず内容を十分に理解できるネイティブスピーカーによって英文チェックを受けた後、投稿する（証明を要する）。

##### (1) 第1頁：

論文表題、著者名（フルネーム）、所属機関について和英併記で記載する。連絡著者は、その名前の右肩にアスタリスク（\*）を付す。

左下に和文で論文種別、連絡著者名、所属機関およびE-mailアドレスを記載する。

##### (2) 第2頁：

サマリー（250語以下）およびキーワード（3～6語）を英文で記載する。

##### (3) 第3頁以降：

本文、謝辞、利益相反、引用文献、図のタイトルおよび説明、構造式、図、表の順に記載する。構造式、図、表などにも、通しのページ数を記載する。

#### 2. 構造式・図・表

原則として、著者の作製したものをそのまま版下に用いる。

図、表は英文で（ただし、「アンケートの形式」を示す場合はその限りではない）、1つずつA4判白地用紙に記載し（縦、横使用可）、化合物番号、図、表には、すべてアラビア数字を使用する（例：Fig. 1, Table 1など）。図の説明文は英文で記載する。

#### 3. 略 語

初出時にスペルアウトし、その直後に略語を（ ）内に示し、以下それを用いる。定義しないで使用できる略語は、次のとおりとする。

AIDS (acquired immunodeficiency syndrome), ATP (adenosine 5'-triphosphate), cAMP (adenosine

3',5'-cyclic monophosphate), cDNA (complementary DNA), CoA (coenzyme A), DNA (deoxyribonucleic acid), ED<sub>50</sub> (50% effective dose), ESCA (electron spectroscopy for chemical analysis), ESR (electron spin resonance), FAB-MS (fast atom bombardment mass spectrometry), FAD (flavin adenine dinucleotide), GC-MS (gas chromatography-mass spectrometry), HOMO (highest occupied molecular orbital), HPLC (high-pressure liquid chromatography, high-performance liquid chromatography), IC<sub>50</sub> (inhibitory concentration, 50%), IR (infrared), LD<sub>50</sub> (50% lethal dose), LUMO (lowest unoccupied molecular orbital), MO (molecular orbital), mRNA (messenger RNA), MS (mass spectrum), NMR (nuclear magnetic resonance (as <sup>13</sup>C-NMR, <sup>1</sup>H-NMR), P450 (as in cytochrome P450), RNA (ribonucleic acid), rRNA (ribosomal RNA), STO (Slater-type orbital (as STO 3G)), TLC (thin-layer chromatography), tRNA (transfer RNA), UV (ultraviolet).

#### 4. 単 位

length (m, cm, mm, μm, nm, Å), mass (kg, g, mg, μg, ng, pg, mol, mmol), volume (L, mL, μL), time (s, min, h, d), temperature (°C, K), radiation (Bq, dpm, Gy, Sv), concentration (M, mM, mol/L, mmol/L, mg/mL, μg/mL, %, % (v/v), % (w/v), ppm, ppb).

#### 5. スペクトル, 元素分析等の記載例

<sup>1</sup>H-NMR (CDCl<sub>3</sub>) δ: 1.25 (3H, d, J=7.0Hz), 3.55 (1H, q, J=7.0Hz), 6.70 (1H, m). <sup>13</sup>C-NMR (CDCl<sub>3</sub>) δ: 20.9 (q), 71.5 (d), 169.9. IR (KBr) cm<sup>-1</sup>: 1720, 1050, 910. UVλ<sub>max</sub> (EtOH) nm (ε): 241 (10860), 288 (9380). UVλ<sub>max</sub> (H<sub>2</sub>O) nm (logε): 280 (3.25). FAB-MS m/z: 332.1258 (Calcd for C<sub>18</sub>H<sub>20</sub>O<sub>6</sub>: 332.1259). MS m/z: 332 (M<sup>+</sup>), 180, 168. [α]<sub>D</sub><sup>25</sup> -74.5° (c=1.0, MeOH). Anal. Calcd for C<sub>19</sub>H<sub>21</sub>NO<sub>3</sub>: C, 73.29; H, 6.80; N, 4.50. Found: C, 73.30; H, 6.88; N, 4.65.

#### 6. 命名法

化合物の命名法は, IUPAC 制定の命名規則に従う. しかし, Chem. Abstr の索引の命名法ならびに Ring Index の命名法に準ずることもできる.

#### 7. 引用文献および注記

引用文献等は, 雑誌掲載論文, 書籍・単行本, インターネット, 講演要旨集, 添付文書, インタビューフォーム, その他(技術報告・特許等)とする. これ以外は, 文章的な記述とする. 出現順に通し番号(引用文献1件ごとに1つの番号とする)を付け, 文中右肩に右片カッコ付きのアラビア数字で示し, 番号順に並べて REFERENCES として論文末尾に一覧表示する. 雑誌名の略称は Chem. Abstr. に準じる. 引用文献が和文の場合は, 和文で記載する.

##### (1) 雑誌の場合

著者名, 雑誌名(イタリック体で), 巻数(ボールドで), 開始ページ-終了ページ, 年の順に記載する.

(例)

- 1) 山本文彦, 東北医薬大研究誌, **63**, 21-43 (2016).
- 2) Nemoto W., Ogata Y., Nakagawasai O., Yaoita F., Tadano T., Tan-No K., *Neuropharmacology*, **99**, 221-231 (2015).
- 3) Ogata Y., Nemoto W., Yamagata R., Nakagawasai O., Shimoyama S., Furukawa T., Ueno S., Tan-No K., *Eur. J. Pain*, **23**, 739-749 (2019).

##### (2) 書籍・単行本の場合

著者名, 書名, 編集者名, 発行所, 都市名, 年, 開始ページ-終了ページの順に記載する.

(例)

- 1) 丹野孝一, 大野 勲, “呼吸器疾患のステロイド療法実践マニュアル,” 東田有智編, 南江堂, 東京, 2014, pp.17-21.
- 2) Sakurada T., Katsumata K., Uchiumi H., Manome Y., Tan-No K., Sakurada S., Kawamura S., Ando R., Kisara K., “Processing and Inhibition of Nociceptive Information,” ed. by Inoki R., Shigenaga

Y., Tohyama M., Elsevier Sciences Publishers B. V., Amsterdam, 1992, pp. 227 – 230.

(3) インターネット，講演要旨集，添付文書，インタビューフォームの場合

①インターネットからの引用：公表機関（または個人）名，タイトル，URL およびアクセスした年月日を記載する。

(例)

1) 文部科学省研究振興局. “ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針”：〈[http://www.lifescience.mext.go.jp/bioethics/hito\\_genom.html](http://www.lifescience.mext.go.jp/bioethics/hito_genom.html)〉（アクセス 2017 年 9 月 1 日）

②講演要旨集からの引用：筆頭演者名，演題名，学術大会名，開催年月，開催地の都市名を記載する。

③添付文書，インタビューフォームからの引用：商品名，添付文書あるいはインタビューフォームを表記，作成日付や改訂日付を記載する。

(例)

1) ダクルインザ®錠 60 mg 添付文書（2017 年 3 月作成）

2) オプスミット®錠 10 mg 医薬品インタビューフォーム第 3 版（2016 年 2 月作成）

#### IV. X線結晶解析

結晶解析による構造が論文において重要な部分を構成するときには，審査のための補助資料として Cambridge Crystallographic Data Centre (CCDC) に登録するのに必要なデータを添付する。結晶解析が補助的に用いられているときには crystal data (unit cell parameters, space group, Z density), R-factor を記載する。Atomic coordinates は，構造が重要なときに印刷される。また，Bond lengths and angles, thermal parameters, torsion angles 等は論文の議論にとって重要な時に印刷される。論文が採用の場合は，CCDC 登録をすること。

#### V. 核酸塩基配列

新規の核酸塩基配列は DDBJ, GenBank あるいは EMBL いずれかのデータバンクに登録すること。論文が採用の場合は，accession number を論文の脚注に記載する。論文出版の際には，配列情報が開示されている必要がある。

#### VI. 天然物および天然物由来の未精製抽出物

天然物および天然物由来の未精製抽出物 (Natural Products and Crude Extract Materials; NP/CEM) に関する研究においては，NP/CEM の起源および抽出法等の完全な記載が必要である。

#### VII. ヒトを対象とした研究および動物実験に関する論文

以下の措置をとること。

1. ヒトを対象とする研究の場合には，各機関の倫理委員会の承認を示す文書のコピーを提出する。また，研究の必然性，被験者が志願したものである旨を論文中へ記載する。
2. 動物実験の場合には，各機関の動物実験指針に従って行った旨を論文中へ記載する。

#### VIII. 「症例報告」の場合

匿名化するなど，患者の個人情報保護に十分留意して原稿を作成すること。

#### IX. 利益相反

投稿に際しては，利益相反 (Conflict of Interest: COI) に関する情報開示が必要である。著者は投稿論文において研究の遂行や，論文の作成にバイアスをもたらす可能性がある全ての利益関係 (金銭的・個人的関係) を開示すること。

開示が必要とされる利害関係：

- 1) 営利団体（企業）からの研究助成金，寄附講座に関する寄附金の受領
- 2) 営利団体（企業）からの謝礼
- 3) 特許権使用料・ライセンス料
- 4) 雇用，顧問契約など
- 5) その他の報酬（旅費や贈答品等）の供与

利益相反に関する情報開示は，本文の最後（引用文献の前）に「利益相反」と見出しを付けて記載すること。著者全員に利益相反がない場合は「開示すべき利益相反はない」と記載し，利益相反のある著者がいる場合は，その氏名とその利益相反について記載する。

（例）

例 1：東北一郎（AB 薬品株式会社の社員），例 2：医薬大太郎（CD 製薬株式会社からの研究助成を受領），例 3：宮城二郎（EF 薬品株式会社から GH 薬品の供与），例 4：仙台花子（IJ 製薬会社の KL 薬品の宣伝のため謝金を受領）

## X. その他

1. 原稿の訂正を求められた際には，指定された期日までに訂正原稿および審査意見に対する回答を審査委員長に提出する。
2. すでに公表された図表を原稿で再利用するときは，図の脚注に出展元を明記する。改変引用の場合はその旨も明記する。ただし，引用の範囲を超える場合は，その図の著作権者の許諾を著者自身で取る。許諾取得に費用が発生する場合は著者の責任で負担することとする。
3. 投稿論文の採用が決定した場合には，最終原稿 1 部とその原稿を記録した電子媒体を審査委員長に提出する。
4. 著者校正では，誤植以外の追加や書き改めは認めない。
5. 著作権

本誌に掲載された論文は，いかなる形式で公表される場合においても，その著作権は，東北医科薬科大学に帰属する。連絡著者には，掲載決定次第，所定の Copyright Transfer を東北医科薬科大学宛に提出していただく。